

令和2年度 外部被ばく量調査報告



バッジ着用期間：令和2年5月16日～7月15日(2ヶ月間)

測定時期については、長期間の休みがなく外活動が最も活発な時期を選び、毎年同じ期間で測定しています。通常の生活をして、これ以上の被ばくにはならないという安全側に見積もった被ばく量計算の概念を取り入れたものです。

外部被ばく調査の目的

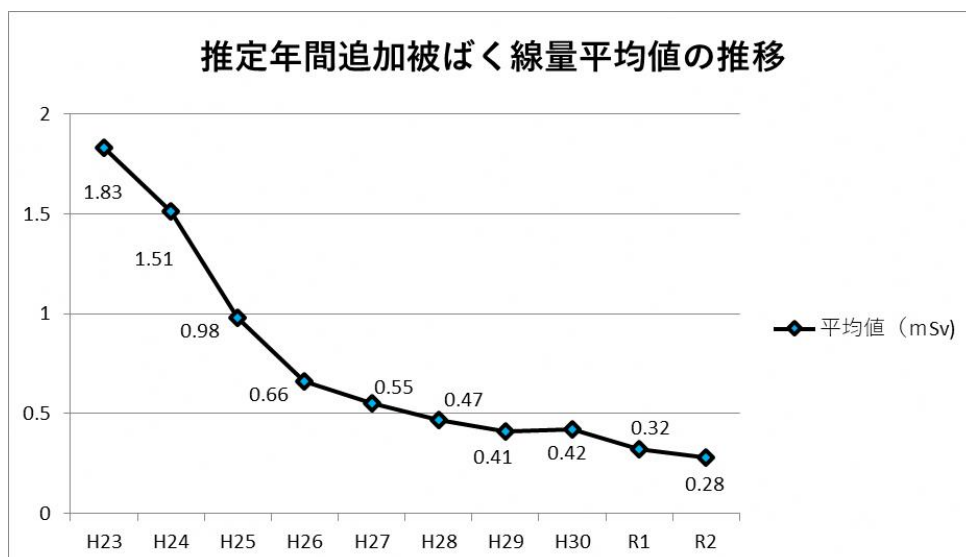
福島第一原発事故に由来する被ばく量を明らかにするために調べています。その際、自然放射線や医療放射線による被ばく量は除いております。

事故由来の外部被ばく量は一人ひとりの行動の違いによって異なりますので、各個人が計測器で測定することにより被ばく量を把握し、生活等の改善に活用することができます。また、市が放射線アドバイザーの指導の基に、調査実施者全体の結果をまとめて市内の実態を把握・評価することで、被ばく線量を減らすための方策検討の一助となります。

1. 測定状況及び推定年間追加被ばく線量

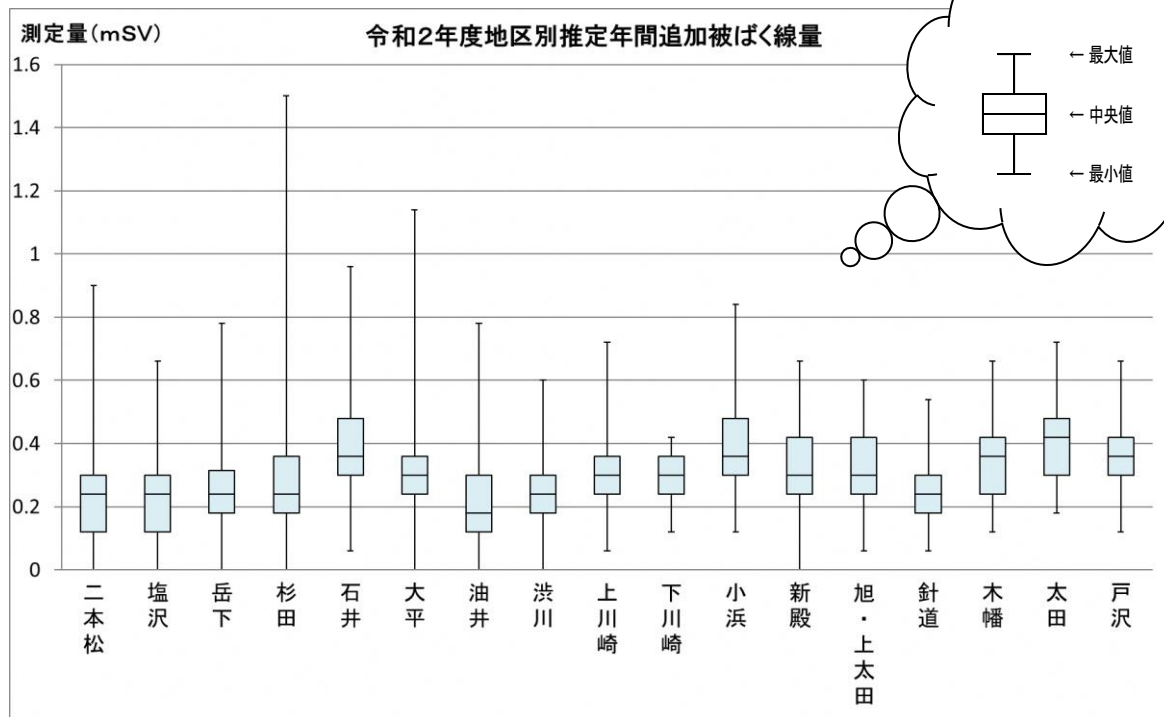
対象グループ	対象者 (人)	実測定者 (人)	提出率 (%)	推定年間追加被ばく線量		
				平均値 (mSv)	最大値 (mSv)	最小値 (mSv)
乳幼児(0～6歳)	2,146	1,168	54.43%	0.27	0.96	0.00
市内小学生	2,370	2,054	86.67%	0.29	1.38	0.00
市内中学生	1,375	864	62.84%	0.26	0.96	0.00
市外小中学生	64	24	37.50%	0.30	0.78	0.00
妊婦	202	76	37.62%	0.26	0.78	0.00
高校生相当	1,481	457	30.86%	0.29	1.50	0.00
19～20歳	967	156	16.13%	0.28	0.78	0.00
一般(21歳以上希望者)	73	63	86.30%	0.22	0.54	0.00
全測定者	8,678	4,862	56.03%	0.28	1.50	0.00

※推定年間追加被ばく線量にはX線検出者、市外生活者の値は含まれない。



<地区別推定年間追加被ばく線量>

測定結果から年間追加被ばく線量を推定し、地区ごとに表しました。



2. 推定年間追加被ばく線量詳細調査について

対象者

- ・市放射線アドバイザーと協議し、推定年間被ばく線量が1.0mSvを超えた6名の方と0.96mSvの方2名を合わせて8名（5世帯）について詳細調査を実施いたしました。

調査方法

- ・聞き取り調査、デジタル線量計により追加測定を実施。



詳細調査から分かったこと

今回の調査では、年間被ばく量が国際放射線防護委員会（ICRP）の定める公衆の被ばく線量限度の年1mSv相当の市民は、8名となりました。多くの場合、自宅にバッジ式線量計を放置し、正しく装着していなかったために、正確な結果が得られなかった状況が確認できました。

考えられる主な要因	延人数
正しく装着・保管されていなかった。	8名
市内より線量の高い市外に居住している。	1名
自宅の近くに山林がある。	3名

中には、自宅近くの山林の影響を受けていた可能性がある方もいらっしゃったので、バッジ式線量計を正しく装着し、自分の被ばく線量を知るのが大切です。

ご自宅にバッジ式線量計はありませんか？

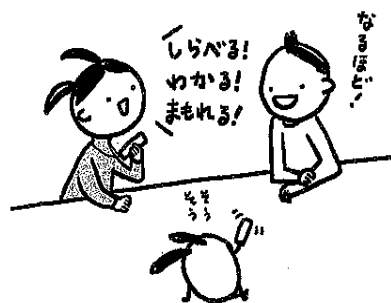
調査実施期間を過ぎて、返送いただけなかったバッジ式線量計も年間を通して回収を行っています。郵送でもご持参いただいても結構ですので、各地区の保健センターへ返却をお願いいたします。

保健センターに返してね!



～放射線に関して気をつけてほしいこと～

市放射線アドバイザーの先生からのメッセージ



原発事故は簡単には終わりません

セシウム 134 が半減期 2 年でどんどん減っていくのに対して、セシウム 137 の半減期は 30 年と長いです。また、今回の事故のように比較的低い放射線被ばくであった場合、人体の影響は時間が経ってから起きるかもしれません。そのためにもきちんと自分の被ばく量を記録することが大切なんです。

新型コロナウイルスのお話

原発事故から 10 年が経とうとしています。みなさんの記憶に震災の記憶は残っていても、原発事故の記憶は薄れかけていませんか。

昨年来、世界中で新型コロナウイルス感染症が問題となっています。なぜこれほどまでに騒がれているのか市民の皆さんはおわかりでしょうか。一番はこれまで確認されたことのなかったウィルスが発生した場合、我々の体の免疫システムは対応できません。そのために、感染したらお年寄りや基礎疾患のある方々は重症化しやすいのです。しかしこうした危機感も薄まり、緊急事態宣言が出された地域にも関わらず外出者の数はあまり減りません。全く同じことが放射線対策でも起きています。



バックグラウンド値について

本来、バッジ式線量計は放射線作業員に対して、放射線管理区域内と非管理区域(バックグラウンド)を比較して被ばく量を求めるために使用していましたが。人は様々な場所に移動します。移動する各地点、地点でバックグラウンド値は異なるため、その場所ごとのコントロール値を求めなくては真の線量を求めることができません。

そのため、一カ所でのコントロール値をもって代用することとしています。市では見かけ上のバックグラウンド値として、安達保健福祉センター内に保管したコントロールバッジの値を用いています。このコントロール値はあくまでも代表値ですので、正確な個人ごとの線量を求めることはできません。

安達保健福祉センターの空間線量率よりも低い地域や鉄筋コンクリートの建物に住まわれている方は、コントロールバッジよりも低い線量となる場合があります。そのため、値が 0.00mSv/年(0.01mSv/年未満)となることがあります。

もし、正確な値をお知りになりたい場合には個別対応を行いますので、裏面連絡先までお問い合わせください。

放射線との付き合い方

「今はわからない」、「まだ判断できない」ことが多い

だから

(1)【測る】こと

(2)【記録する】こと

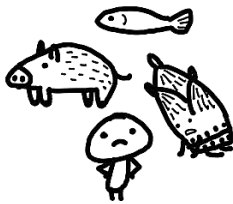
(3)【学ぶ・知る】
こと

が重要です。

訂正版

内部被ばくの測定と記録

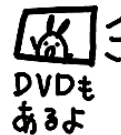
近頃、ホールボディカウンター（WBC）の測定にくる人が少なくなっていますが、放射性物質が検出される方は現在もおられます。知らず知らずのうちに、放射性物質を取り込んだ食品を摂取している可能性があるため、季節の変わり目や、お知らせが来た時など、定期的に測定する必要があります。安心・安全であることを確かめる、関心を持ち続けることが、放射線から心身の健康を守ることに繋がります。測定をし、記録しておきましょう。



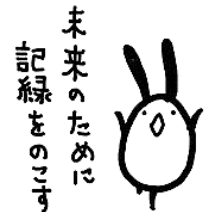
山の幸を食べたら…



WBC検査を受けましょう



DVDも
あるよ



未来のために
記録をのこす

予約申し込み

二本松市放射線被ばく測定センター

電話 0243-24-8110 予約受付時間 午前8:30～午後5:00

測定時間 午前9:00～11:45 / 午後1:15～4:45

測定場所 二本松市若宮二丁目69番地(旧保健所2階)

定休日 毎週木曜日・祝日

●土曜・日曜の測定(隔週)、夜間測定(水曜)もあります。気軽にご相談ください。

※電話予約なしで受ける事も出来ます。(予約の方が優先となります)



【問合せ先】健康増進課 保健係 0243-55-5110